

谷川岳-梅雨の馬蹄形縦走



(一ノ倉沢の大岩壁を望む)

期 間 : 2024 年 07 月 06 日(土)~07 日(日)

種 別 : 例山行

山 域 : 谷川岳

参 加 者 : 河本(L)、I-E、S-M、前田(記) ※敬称略

累積標高 : 上り 2850m、下り 2850m

距離・コースタイム :

1 日目 13.3km

06:00 白毛門登山口 10:30 白毛門 12:00 笠ヶ岳 14:00 朝日岳

17:00 清水峠 19:00 蓬ヒュッテ(ビバーク地)

2 日目 11.4km

06:00 蓬ヒュッテ 10:00 茂倉岳 11:00 一ノ倉岳

13:00 オキノ耳 13:30 トマノ耳 14:00 肩の小屋

18:00 西黒尾根登山口 18:50 白毛門登山口

山行の目的：

ベテランの河本、並びに I-E が、山行見学の S-M と新人の前田を率いて縦走山行を行う。
ルート選定理由は、当会と谷川岳の深く長い歴史があるためであり、先達のアルパインルート開拓者精神を感じ学ぶ。また、この地に眠る会先達の慰霊もさせていただく。

記録：

1 日目

笠ヶ岳から見る烏帽子岳(手前)・朝日岳(奥)



梅雨時期のため悪天候を心配したが、この日は終日曇り、時々小雨といった空模様であった。日差しは少なく気温は 20℃前後と比較的快適に登ることができた。樹林帯では無風であったが、稜線に出た際に涼しい東風を感じることができた。白毛門からは冒頭写真のように一ノ倉沢の大岩壁を望むことができた。横須賀山岳会の先達が夏冬の初登を果たしたという滝沢リッジも拝見し、切り立つ大岩壁にルート開拓した先輩諸氏のアルピニズムを感受した。自分もアルパインルートに登れるように精進したいと決心した瞬間であった(良かった点①)。14:00 ごろ朝日岳付近から降雨があり、各自レインウェアを着用した。清水峠の頃には雨が上がったこともあり、前田を含む一部のメンバーはレインウェアを脱いだ。結果的にレインウェア脱衣は悪判断であった。登山道の両端に生い茂った笹が、濡れて頭を垂れた状態で体に触れ、全身が濡れることになった。全身が濡れた状態で、日が落ちて気温が下がり、さらに馬蹄形を折り返し東側の山に差し掛かる場所であったため東風を直接受けた。これらの状態により、体温が下がった結果、前田は寒さを感じ、歯の震えなど低体温症の初期症状が現れた。幸い大事には至らなかったが、今後の山行において反省すべき点である(反省点①)。朝日岳付近においてスマホを紛失したため、1 時間ほど搜索し、ロスタイム発生。スマホは後に自分のゴミ袋から発見した(反省点②)。

オキノ耳付近の鳥居と祠



二日目は快晴であり、強い日差しと気温が高い状態が続いたことから、S-M には熱中症の症状も垣間見られた。前々夜の車移動と前夜のテント泊による寝不足なども一因と思われる。天候が良かったため、この日は人出も多く、ロープウェイからの一般登山客、馬蹄形縦走中の学生山岳部、トレイルランナー、岩壁をよじ登るアルパインクライマー、沢を詰めてきた山屋といった様々な形態で谷川岳を楽しんでいる様子であった。前田にとっては初の谷川岳のため、オキトマの耳で記念撮影をし、肩の小屋でジュース休憩を取り、西黒尾根から下った。西黒尾根から続く下りでは、テンポ良く下ることができず時間がかかってしまった。テント泊装備の重量だと足運びが上手くできず一步一步荷重を脚に載せてブレーキを掛けてしまっていた。この下りで膝に負担がかかり、炎症が起き痛みを発症した。今後はテンポ良く下れるよう、先を見越した足運びを身に着けたい(反省点③)。

今回の山行では、食事に会の伝統を感じるきっかけを用意していただいた。行動食のお茶請けに羊羹。夕食には、生米炊飯からの三色丼(そぼろ・錦糸卵・桜でんぶ)、梅酢が香るキュウリの浅漬。デザートはパイナップル缶。朝食には、サラダチキン、乾燥野菜と生トマトを添えた塩ラーメン。見た目は華やか、栄養バランスも完璧な食事をご用意いただいた。アルファ米ではなく生米、糖分水分会が豊富な羊羹はエネルギー補給に適しており疲労回復が促進された、と感じた。またパイン缶や生の野菜など繊維質を補給することで山行中に疎かになりがちな食物繊維を摂取できた。昨今の山行中の食事では軽量性や簡易性を重要視する傾向にあるが、今回のように先人の知恵を感じる食事もあるだろう。今後の山行食においても栄養や伝統のバランスは大事にしたい(良かった点②)。

谷川慰霊碑にて黙祷を捧ぐ



終点地の慰霊碑にて会先達の刻銘を探し、御冥福をお祈りすると共に登山者の安全登山を見守ってもらえるよう祈念した。これからアルパインクライミングを目指す私としてはアルパインルートに登攀に憧れると同時に、過去の事故から得られる教訓を学び伝えることで事故の防止に努めたいと強く感じるきっかけとなった。(良かった点③)。

総括：

今回の山行を通して、谷川岳馬蹄形縦走は、私のような当会の新入りが会の伝統と歴史、また精神性を養うには絶好のルートであろうと承服した。ただ、時期はずらしたい。梅雨時期の高温多湿では苦しい思い出になりかねないため、残雪期や初秋～積雪期前に再訪したい。そして今回、テント泊装備を背負って約 25km、累積標高±約 3000m の縦走を完遂した経験は、初心者私には大きな自信となった。機会を用意し、同行していただいた会の先輩と、これまでの歴史を紡いでくれた先輩諸氏に感謝感謝感謝。

振り返り：

下記に良かった点と反省点と対応策を記載してとする。

良かった点

- ✓ ① 切り立つ大岩壁を望むことでルート開拓した先輩諸氏のアルピニズムを感受することができた
- ✓ ② 食事においても会の歴史を感じることができ、伝統を大切にしたいと感じた
- ✓ ③ 慰霊碑に黙祷し、安全登山の心がけを誓った

反省点

- ✓ ① 濡れを防ぐために、雨上がりであっても安易にレインウェアを脱がないこと
- ✓ ② 紛失物に気付いた場合は、まず荷物を徹底的に確認すること。そもそも重要なアイテムは細引きで繋ぐなど紛失しない工夫をすること
- ✓ ③ 下山時の歩行スピードを向上するために、テンポよく流れるように足を置くこと

ルート図の全体像

